

**製品名: ASK 1 (リン酸化 Ser83) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04268**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

**抗原情報**

遺伝子名	MAP3K5 MAP3K5; ASK1; MAPKKK5; MEKK5; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 5;
別名	Apoptosis signal-regulating kinase 1; ASK-1; MAPK/ERK kinase kinase 5; MEK kinase 5; MEKK 5
遺伝子 ID	4217.0
SwissProt ID	Q99683
免疫原	抗血清は、ヒト ASK1 の Ser83 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 49-98

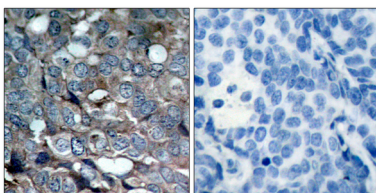
## 背景

マイトジェン活性化プロテインキナーゼ (MAPK) シグナル伝達カスケードには、MAPK (細胞外シグナル調節キナーゼ)、MAPK キナーゼ (MKK または MEK)、MAPK キナーゼキナーゼ (MAPKKK または MEKK) が含まれます。MAPKK キナーゼ/MEKK は、下流のプロテインキナーゼである MAPK キナーゼ/MEK をリン酸化して活性化し、MAPK を活性化します。これらのシグナル伝達カスケードのキナーゼは高度に保存されており、酵母、ショウジョウバエ、哺乳類細胞に相同遺伝子が存在します。MAPKKK5 は、1,374 個のアミノ酸を含み、11 個のキナーゼサブドメインすべてを有しています。ノーザンブロット解析により、MAPKKK5 転写産物はヒトの心臓と膵臓で豊富に発現していることが示されています。MAPKKK5 タンパク質は、in vitro で MKK4 (別名 SERK1、MAPKK4) をリン酸化して活性化し、COS 細胞および 293 細胞での一過性発現中に c-Jun N 末端キナーゼ (JNK)/ストレス活性化プロテインキナーゼ (SAPK) を活性化します。一方、MAPKKK5 は MAPK/ERK を活性化しません。[提供:再触媒活性:ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。]補因子:マグネシウム。]酵素調節:N 末端自己阻害ドメインを含みます。Thr-838 のリン酸化によって活性化され、Ser-966 および Ser-1033 のリン酸化によって阻害されます。MAP3K6 に結合して安定化し、MAP3K6 によって Thr-838 のリン酸化によって活性化されます。]機能:タンパク質キナーゼシグナル伝達カスケードの構成要素。MAP2K4 と MAP2K6 をリン酸化・活性化し、それぞれ JNK と p38 MAP キナーゼを活性化する。過剰発現はアポトーシス細胞死を誘導する。]誘導:TNF- $\alpha$  による。HIV-1 Nef によって阻害される。]類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。]類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼキナーゼサブファミリー。]類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。]サブユニット:不活性時はホモ二量体。多分子複合体において上流の活性化因子と下流の基質の両方に結合する。HIV-1 Nef と会合し、阻害される。DAB2IP および PPM1L と相互作用する。]組織特異性:心臓と膵臓で豊富に発現する。]

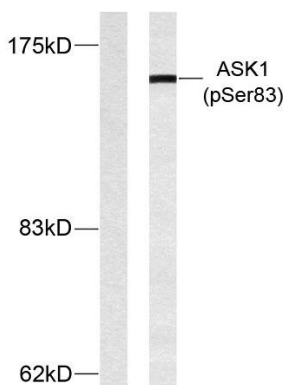
## 研究分野

SAPK\_JNK; アクチンダイナミクスの制御; 細胞増殖; 幹細胞経路; Cell\_Cycle\_G1S; Cell\_Cycle\_G2M\_DNA; MAPK\_ERK\_Growth; MAPK\_G\_Protein; B 細胞受容体

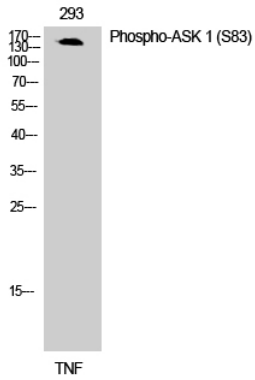
## 画像データ



ASK1 (リン酸化 Ser83) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF- $\alpha$  処理した MDA-MB-435 細胞のライセートを ASK1 (リン酸化 Ser83) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。左のレーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化ASK 1 (S83) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析